

発達に障害のある乳幼児への早期介入と 家族支援に関する諸問題(9)

—『親と教師のための学齢期の子どもの行動支援プログラム—家庭・学校・地域
における豊かな生活をめざして—』の開発と指導の進め方について—

清水直治*

認定 NPO 法人日本ポーターズ協会は、就学前から開始した早期対応を学齢期になって
も継続して実施できるようなプログラムが希求されるなかで、2013年に『親と教師のた
めの学齢期の子どもの行動支援プログラム—家庭・学校・地域における豊かな生活をめざ
して—』を試作した。この行動支援プログラムは、<アセスメント・インベントリー>、
<行動支援の計画・実施・評価シート>及び<子どもの活動カタログ>から構成される。
ポーターズ相談員は、<アセスメント・インベントリー>のアセスメント・質問シートか
ら抽出された「目標となる行動」を<子どもの活動カタログ>に挙げられた「行動目標」
と対応させて、行動支援シートを用いて学齢期の子どもの行動支援計画を作成する。その
行動支援計画における「行動目標」を達成するための指導の進め方として、応用行動分析
の原理を適用した指導—評価の循環過程を実践する。

キーワード：学齢期、行動支援プログラム、アセスメント・インベントリー、子どもの活
動カタログ、応用行動分析

はじめに

—家庭、学校、地域における学齢期の 子どもの豊かな生活を構築するために—

認定 NPO 法人日本ポーターズ協会は、発達が遅れた乳幼児の早期からの発達相談と親・家族支
援のためのプログラムである『ポーターズ乳幼児
教育プログラム』を1983年に出版し、その臨床
的妥当性を実証するなかで、この早期対応プロ
グラムを日本全国及びアジア地域に普及させる
ために1985年に組織された（山口、1983; 清水、
2005; 清水、2012）。そして2000年に東京都から
NPO 法人に認証され、2005年には、『新版ポー
ーターズ早期教育プログラム』として、それまで
の20年以上に及ぶ臨床経験を踏まえて改訂新版
を出版した（日本ポーターズ協会、2005）。さら
に、2014年1月に認定 NPO 法人になった。2014
年1月現在で、日本全国に48カ所ある支部を拠点

にして、地域の実情に即したポーターズ相談を推
進している。

この間に2005年には、「遊び单元」中心の多層
水準指導を実施するツールである『インクルー
ジョン保育を展開するための幼児・グループ指導
カリキュラム』を開発し、その臨床的妥当性の
検討を行ってきた（日本ポーターズ協会、2008;
清水、2010）。その後さらに、乳幼児期という早
期から開始した行動支援を学齢期になっても継
続して実施できるようなプログラムが希求され、
2013年に『親と教師のための学齢期の子ども
の行動支援プログラム—家庭・学校・地域におけ
る豊かな生活をめざして—』を試作した。

本稿では、この学齢期の子どもの行動支援プロ
グラムの理念や構成について検討するとともに、
アセスメント・インベントリーによるアセスメン
ト情報をもとに作成される行動支援計画と、それ
にもとづいて応用行動分析の原理を適用して実施

*しみず なおじ 東洋大学文学部教育学科

する指導－評価の循環過程である指導の進め方について検討することを目的とする。

I. 『親と教師のための学齢期の子どもの行動支援プログラム』の理念と構成

1. 理念

次のような理念のもとに開発した。

- ①『新版ポーターズ早期教育プログラム』あるいは『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム』を用いて乳幼児期に実施した、早期からのポーターズ相談に連繋する。
- ②親・家族による家庭指導を基礎とする学齢期の子どもの家庭、学校、地域における包括的な行動支援を行う。
- ③発達に障害のある子どものインクルージョン社会への参加を促すために、地域の人たちと連携した子どもの行動支援を行う。
- ④乳幼児期から学齢期、そして生涯発達支援を一貫して実施する行動支援システムを構築する。
- ⑤親のニーズ、家族アセスメント、子どもの家庭・学校・地域における日常活動や学習の課題、行動問題のアセスメントにもとづく行動目標の選出と、子どもの持つ力や強み（ストレンクス）を統合したニーズ・ベースト・アプローチによる行動支援を行う。
- ⑥応用行動分析の原理を適用したエビデンス・ベースト・アプローチによる行動目標の達成を目指す。

2. 構成

次のような<アセスメント・インベントリー>、<行動支援の計画・実施・評価シート>及び<子どもの活動カタログ>から構成される。

<アセスメント・インベントリー>には、親や家族のニーズや実態、子どもの日常活動に関する各種のアセスメント・質問シートがある（図1～図7）。①フェイスシート（No.1）、②親のニーズ質問シート（No.2）、③家族のアセスメントシート（No.3）、④子どもの日常活動質問シート（1）子どもの生活時間（No.4）、⑤子どもの日常活動質問シート（2）生活地図（No.5）、⑥子どもの日常活動質問シート（3）生活の様子（No.6）、⑦学校生活質問シート（No.7）。No.1～No.7を

用いたアセスメント情報から、「目標となる行動」、「子どもの持つ力や強み」、「子どもに使える強化子」、「必要な行動支援」について集約する。

<行動支援の計画・実施・評価シート>には、⑧行動支援カリキュラム計画シート（No.8）、⑨行動支援記録シート（No.9）、⑩行動支援活動チャート（No.10）、⑪行動支援経過シート（No.11）、があり（図8～図11）、Plan・Do・Seeの循環過程を行う。また、可能な場合には、⑫子どもの意思・希望質問シート（No.12）を用いて、子ども自身の意思や希望を聴取する（図12）。

<子どもの活動カタログ>では、学齢期の子どもが活動する生活領域を「家庭生活」、「学校生活」、「地域生活」に区分し、それらの生活領域において、数多くの子どもたちが習得することが予想される行動目標を<子どもの活動カタログ>として準備した。図13に、<子どもの活動カタログ>の構造を示す。これら3つの生活領域は、さらにいくつかの下位領域に分かれる（表1～表3）。

No.1～No.7の<アセスメント・インベントリー>から集約された「目標となる行動」を<子どもの活動カタログ>に挙げられた「行動目標」と対応させ、さらに「子どもの持つ力や強み」、「子どもに使える強化子」などを考慮して、子どもの行動支援計画を作成する。

II. 『親と教師のための学齢期の子どもの行動支援プログラム』による指導の進め方

1. 指導の進め方

図14に、『親と教師のための学齢期の子どもの行動支援プログラム』の構造と指導の進め方を示す。次のように、指導－評価の循環過程を繰り返す。

- ①ポーターズ相談員は、<アセスメント・インベントリー>のそれぞれのアセスメント・質問シート（No.1～No.7）を使って、それぞれのアセスメント・質問シートについて、子どもの「目標となる行動」、「子どもの持つ力や強み」、「子どもに使える強化子」、「必要な行動支援」を集約する。必要に応じて、親、家族、教師、地域の人などから関連する情報を収集する。
- ②次いで、ポーターズ相談員は、<子どもの活動カタログ>から「目標となる行動」に対応す

る「行動目標」を選出し、さらに「子どもの持つ力や強み」、「子どもに使える強化子」を考慮しながら、「行動支援カリキュラム計画シート(No.8)」を用いて子どもの行動支援計画を作成する。

- ③そして、ポーターズ相談員は、<子どもの活動カタログ>から選出した「行動目標」について、その指導の方法や指導するときに留意する点などを「行動支援記録シート(No.9)」に記載して、親(必要に応じて、家族、教師、地域の人)に渡す。
- ④さらに、必要であれば「行動支援活動チャート」(No.10)に、選出した1つの「行動目標」あるいはその「行動目標」について課題分析をした「標的行動」の一つを取り上げ、その指導の内容や結果の記録の方法などを記載して親(必要に応じて、家族、教師、地域の人)に渡す。
- ⑤親は、家族、教師、地域の人あるいはポーターズ相談員と連携をとりながら、家庭、学校、地域の生活領域における日常活動のなかで、「行動目標」や「標的行動」を達成させるための指導を展開し、その指導の結果を「行動支援記録シート(No.9)」や「行動支援活動チャート」(No.10)に記録する。
- ⑥ポーターズ相談員は、一定期間ごとに、親(あるいは家族、教師、地域の人)による指導の結果について、「行動支援記録シート(No.9)」や「行動支援活動チャート」(No.10)の記録をもとに面談を行い、親などが指導した「行動目標」や「標的行動」の全体の進捗状況を「行動支援経過シート」に記録する。
- ⑦このように、「行動支援カリキュラム計画シート(No.8)」に挙げられた、多角的なアセスメントをもとに選出した「行動目標」を達成するために、指導—評価の循環過程(Plan-Do-See)を実践する。そして、この循環過程のなかに、可能な限りで「子どもの意思・希望質問シート(No.12)」から得られた当事者の意思・希望を反映させる。
- ⑧そして、選び出された「行動目標」や「標的行動」の指導に当たっては、応用行動分析の原理を適用した指導を実践する。
- ⑨なお、以上のような<アセスメント・インベントリー>のそれぞれのアセスメント・質問シート(No.1～No.7)を用いた実態把握にもとづ

く「行動支援カリキュラム計画シート(No.8)」の見直しを、状況に応じて適宜に行う。

2. <アセスメント・インベントリー>への記入

ポーターズ相談員が親や家族、教師などに質問しながら、次の要領で<アセスメント・インベントリー>に記入する。何回かに分けて聴取を繰り返すことによって、情報を収集する。

- ①フェイスシート(No.1)：子どもとその家族に関する基礎事項を書く。「医療・相談・教育歴」は、古い順に子どもの生活年齢を付けて、係わりがあった機関名を書く。
- ②親のニーズ質問シート(No.2)：親が現在持っているニーズを聴取する。「子育ての支援について」は、子どもがすでに受けている子育てサービスや親が求めている既存の子育てサービス、あるいは子育てに関する希望などを書く。「目標となる行動」は、指導の対象となる行動を、この質問シートより得られた情報から抽出して書く。「子どもの持つ力や強み」は、子どもを指導する際に有効に作用すると予想される子どもに関する事項を、左側の質問シートより得られた情報から抽出して書く。「子どもに使える強化子」は、子どもの望ましい行動を増やすために利用できそうな強化子が、左側の質問シートより得られた情報から抽出できれば書く。「必要な行動支援」は、左側の質問シートより得られた情報から、必要であると思われる行動支援を書く。これらの「目標となる行動」、「子どもの持つ力や強み」、「子どもに使える強化子」及び「必要な行動支援」の4項目については、No.2～No.7のすべてのアセスメント・質問シートにおいて、左側の質問シートより得られた情報から抽出して書く
- ③家族のアセスメントシート(No.3)：家族の構成員と子どもとの「かかわり」、子どもの「支援につながるがら」を書く。
- ④子どもの日常活動質問シート(1)子どもの生活時間(No.4)：「週の活動」は、子どもの一週間の活動スケジュールを、「午前」、「午後」、「放課後」、「夜間」に分けて書く。「1日の活動」は、「平日」と「休日」ごとに記入しやすいうように時間配分をして書く。
- ⑤子どもの日常活動質問シート(2)生活地図(No.5)：「家庭」(あるいはそれに相当する場所)

を基点に、子どもがしばしば出かけて行く場所、そこに移動する手段や所要時間、そこで行う事柄や出会う人たちなどを書く。

- ⑥子どもの日常活動質問シート(3)生活の様子(No.6):「家庭生活」、「学校生活」、「地域生活」に分けて、それぞれの生活領域における活動の状況を書く。「機嫌や行動の変動」は、子どもの感情や状態の突然の変化などがあれば、その特徴を書く。
- ⑦学校生活質問シート(No.7):ポーターズ相談員や親が担任教師に聴取することによって記入する。「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」が参照できれば、その内容を要約して書く。

3. <行動支援の計画・実施・評価シート>への記入

ポーターズ相談員は、<アセスメント・インベントリー>から得られたアセスメント情報を集約して、次の要領で<行動支援の計画・実施・評価シート>に記入する。

- ⑧行動支援カリキュラム計画シート(No.8): No.2~ No.7のそれぞれのアセスメント・質問シートから抽出された「目標となる行動」、「子どもの持つ力や強み」、「子どもに使える強化子」及び「必要な行動支援」を書くとともに、それぞれの「目標となる行動」について<子どもの活動カタログ>のどの「生活領域」、「内容」、「活動」に対応するかを書き、その「活動」を行動目標として子どもに指導する優先順位を書く。「減らしたい行動・なくしたい行動」は、学習を妨害するような不適切行動があれば記入する。
- ⑨行動支援記録シート(No.9):「活動」の欄には、<子どもの活動カタログ>から選出された「活動」を子どものニーズに合わせた「行動目標」(あるいは「標的行動」)として設定し、その指導の内容や方法を書く。「記録」の欄には、親などによる指導の結果を記録する。
- ⑩行動支援活動チャート(No.10):必要であれば、設定した1つの「行動目標」(あるいは「標的行動」)について、指導の方法、指導結果の記録の方法などを記載して親(あるいは親以外の指導を実行する人)に渡し、指導の結果を記録するように言う。
- ⑪行動支援経過シート(No.11):行動支援計画

にもとづく行動目標の達成状況を記入する。「減らしたい行動・なくしたい行動」は、不適切行動への取り組みがあればその進捗状況を書く。

- ⑫子どもの意思・希望質問シート(No.12):行動支援に関して子どもから意思や希望を聴くことが可能であれば、表明された子どもの意思や希望を書き、行動支援計画を作成する際に考慮する。

Ⅲ. 総合考察

『新版ポーターズ早期教育プログラム』を用いた親による乳幼児期という早期からの家庭指導、あるいは『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム』による多層水準指導を原理とするグループ指導を受けてきた子どもたちにおいて、学齢期に移行する時点になって、支援が停滞したり指導が中断してしまうことをしばしば経験するなかで、就学前の時期から学齢期へと円滑に継続・移行できるような行動支援プログラムの開発が希求されていた。

そこで、日本ポーターズ協会のこれまでの30年近くに及ぶポーターズ相談の臨床経験を基礎に、ポーターズ相談員を中心とする学齢期における親・家族、教師・学校、そして地域の人たちとの連携のもとで、学齢期の子どもの行動支援が適切に実践できるような行動支援プログラムの作成を構想してきた。

学齢期の子どもの行動支援に際しては、就学前の乳幼児を対象として早期から親による家庭指導を行う『新版ポーターズ早期教育プログラム』や障害のある子どもたちと障害のない子どもたちが共に育ちあう集団活動を展開する『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム』のように、発達の全体を底上げするボトムアップアプローチよりも、一人ひとりの子どもが置かれた日常生活の環境のなかで起こってくる異なるニーズに的確に即時に応えるには、「行動目標」としての活動が前もって準備され、そのなかから「行動目標」が適宜に選択でき、一人ひとりの子どものニーズに合わせて微調整が可能となるよう子どもたちの活動カタログによるトップダウン・アプローチが適当であると考えられた。

そして、学齢期の子どもの生活領域として、「家庭生活」、「学校生活」、「地域生活」に3区分し、それぞれの生活領域においてごく普通の子どもが

学齢期に獲得することが予測される「行動目標」を、＜子どもの活動カタログ＞として準備した。ここに挙げた「行動目標」は、しかしながら、記載されているままのかたちで「行動目標」として設定されるわけではなく、＜アセスメント・インベントリー＞の各種のアセスメント・質問シートから得られた「目標となる行動」に照らしてそれは個別化して設定される。いわば「イージー・オーダー」のスーツを注文するときのように、それを着る人の体型や好みに合わせて微調整するだけで、その個人の体型や好み（ニーズ）にフィットしたスーツ（「行動目標」）が比較的容易に作成（設定）できよう。

例えば、＜アセスメント・インベントリー＞の各種のアセスメント・質問シートから得られた「目標となる行動」に対応して、＜子どもの活動カタログ＞において「生活領域：家庭生活、A. 基本的な生活習慣、1. 食事、活動①適切な食事をする」、が選出されたことを考えてみよう。この際に、「①適切な食事をする」という活動は、「行動目標」として設定するに当たって、一人ひとり異なるニーズに応じて具体的な「行動目標」は異なったものとなる。ある子どもにおいて目標となる行動は「適切な食事の量を残さず食べる」行動かもしれないし、別な子どもにおいては「好き嫌いをせずに適切に食べる」行動が目標となるかもしれない。このように、「活動」の欄に挙げられた「行動目標」は、「目標となる行動」に照らして一人ひとり異なるニーズに応じて具体化される。このことによって、例えば、「①適切な食事をする」という活動が「行動目標」としての具体的な内容を異にして、複数回選出されることがあろう。現在のその子どもの発達実態や障害特徴に即して、家庭、学校、地域という生活領域の日常活動を優れて円滑に過ごすためにはどのような行動を獲得すればいいか、という行動支援を実践していくうえでの「トップダウン・アプローチ」を重視する考え方がその根底にある。

＜アセスメント・インベントリー＞としては、親のニーズと家族の資源・強みや思い、子どもの日常活動としての生活時間や生活地図、そして学校における生活の様子などについて多角的に情報が収集できるように、アセスメント・質問シートを準備した。この＜アセスメント・インベントリー＞を用いることによって、特に子ども自身が持つ

力や強み、親や家族、学校や地域のなかに存在する資源を有効に活用できるように行動支援計画を立案し、実行することが可能になる。

ポーターページ相談員等が行動支援計画を立案するためのアセスメント情報は、＜アセスメント・インベントリー＞によって収集される。また、学齢期の子どもが獲得すると予想される家庭、学校、地域における日常活動は＜子どもの活動カタログ＞に挙げられた。これらのアセスメントや質問の項目、あるいは活動として挙げられている「行動目標」の内容的妥当性について検討する必要がある。

現在、研究サイトを選定して、『親と教師のための学齢期の子どもの行動支援プログラム』の臨床的妥当性を実証するための研究を開始した。学齢期の子どもやその親・家族を対象にポーターページ相談を行っているポーターページ相談員等による臨床的妥当性の検討については、今後さらに、研究サイトを増やし臨床実践をとおして実証研究を継続する。

引用文献

- 日本ポーターページ協会（2005）. 新版ポーターページ早期教育プログラム. 日本ポーターページ協会.
- 日本ポーターページ協会（企画・製作）（2008）. DVD育ち合う保育. 日本ポーターページ協会.
- 清水直治（2005）. ポーターページ・モデル発達の遅れた乳幼児とその家族のための早期介入の理念と発展一. 東洋大学文学部紀要, 第58集, 教育学科編XXX, 117-140.
- 清水直治（2010）. 発達に障害のある乳幼児への早期介入と家族支援に関する諸問題（5）－『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム－「遊び単元」中心の多層水準指導－』の開発と実践に関して一. 東洋大学文学部紀要, 第63集, 教育学科編XXXV, 41-53.
- 清水直治（監修）（2012）. 続・ポーターページで育った青年たち 輝いて今をいきいきと－早期からの発達相談と親・家族支援をすすめて. ジアース教育新社.
- 山口薫（監訳）（1983）. カード式ポーターページ乳幼児教育プログラム. 主婦の友社.

（註）本研究は、認定NPO法人日本ポーターページ協会の「研究部」によって行われている。

＜アセスメント・インベントリー＞の企画・作成は、亀井哲宏が担当した。

No.1：フェイスシート

(記録日 年 月 日 / 記録者)

<small>ご本人の</small> 本人氏名		男・女 年 月 日生 (歳 月)			現住所 〒 _____ Tel. _____ Fax. _____ Email _____			
家 族	本人との続柄	氏 名	年齢(生年月)	職業(在学)	備考	在学校 学校名 (_____) 〒 _____ Tel. _____ Fax _____		
						年 齢	機 関	
							備 考	
生 育 歴	栄 養	母乳・混合・人口・その他 (_____)					学 歴	
	哺 乳 力	強・中・弱						
	泣 き 方	強・中・弱						
	身 体 発 育	良好・普通・不良						
	首 の す わ り (歳 月)		そ					
お す わ り (歳 月)		の						
は い は い (歳 月)		他						
ひ と り 歩 き (歳 月)								
意味のある言葉を言う (歳 月)								

図1. フェイスシート

No.2：親のニーズ質問シート

(記録日 年 月 日 / 記録者)

子育てについて		→	目 標 と な る 行 動	
・子どもに願うこと	現 在		近い将来	
・子どもに身につけて欲しいこと				
・子育てで大切にしていること				子どもの持つ力や強み
・子どものよいところ				
子どもの行動について			子どもに使える強化子	
・子どもにして欲しい行動				
・子どもにして欲しくない行動				
・認められない行動(許しがたい行動)				
子育ての支援について			必要な行動支援	
・現在、利用している支援				
・将来、利用したい支援				
・その他				

図2. 親のニーズ質問シート

No.5:(2) 生活地図 (記録日 年 月 日 / 記録者)


	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="height: 60px;">目標となる行動</td></tr> <tr><td style="height: 60px;">子どもの持つ力や強み</td></tr> <tr><td style="height: 60px;">子どもに使える強化子</td></tr> <tr><td style="height: 60px;">必要な行動支援</td></tr> </table>	目標となる行動	子どもの持つ力や強み	子どもに使える強化子	必要な行動支援
目標となる行動					
子どもの持つ力や強み					
子どもに使える強化子					
必要な行動支援					

図5. 子どもの日常活動質問シート (2) 生活地図

No.6:(3) 生活の様子 (記録日 年 月 日 / 記録者)

	家庭生活	学校生活	地域生活
好きな活動・場面			
嫌いな活動・場面			
生活する上で困っていること			
機嫌や行動の変動			

目標となる行動
子どもの持つ力や強み
子どもに使える強化子
必要な行動支援

図6. 子どもの日常活動質問シート (3) 生活の様子

No.7：学校生活質問シート

(記録日 年 月 日 / 記録者)

(1) 学校生活の様子

	現 状	目 標	手 立 て
学習面			
生活面			
行動面			
友だち関係			



目標となる行動
子どもの持つ力や強み
子どもに使える強化子
必要な行動支援

(2) 学校・家庭の連絡

学校から家庭へ (個別の指導計画など)	家庭から学校へ (連絡帳など)	家庭と学校の連携
担任名： _____		

図7. 学校生活質問シート

No.8：行動支援カリキュラム計画シート

(記録日 年 月 日 / 記録者)

(1) 目標となる行動の指導順位

	目標となる行動	子どもの持つ 力や強み	子どもに 使える強化子	必要な行動支援	指導 順位	子どもの活動カタログとの対応		
						生活 領域	内容	活動
親のニーズ 質問シート								
家族アセスメント シート								
子どもの 日常活動 質問シート								
学校生活 質問シート								

(2) 行動の減少・除去

減らしたい行動・なくしたい行動	話し合いの記録(親・教師・ポーターシ相談員)
-----------------	------------------------

図8. 行動支援カリキュラム計画シート

No.9：行動支援記録シート

子どもの名前 _____ 年 月 日 ~ 年 月 日
記録者 _____ 整理番号 _____

領域	家庭生活	学校生活	地域生活
活 動			
記 録			
備 考			

図9. 行動支援記録シート

No.10：行動支援活動チャート

整理番号 (_____)

<p>指導期間 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日</p> <p>子どもの名前： _____</p> <p>相談員名： _____</p> <p>【子どもの活動カタログ】</p> <p>生活領域： _____ 内容： _____</p> <p>活動： _____</p> <p>【行動支援】</p> <p>行動目標（標的行動）： _____</p> <p>指導内容： _____</p> <p>指導方法： _____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	<div style="border: 1px dashed black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">記録方法</p>
<p>次の行動目標（標的行動）： _____</p>	

図10. 行動支援活動チャート

子どもの名前 _____

(年 月 日生)

No.11：行動支援経過シート

記録者 _____ 整理番号 _____

年	家庭生活		学校生活		社会生活		減らしたい行動 なくしたい行動	備 考
	行動目標	達成	行動目標	達成	行動目標	達成		
月 日								
月 日								
月 日								
月 日								
月 日								
月 日								

図11. 行動支援経過シート

No.12：子どもの意思・希望質問シート

(記録日 年 月 日 / 記録者 _____)

	家庭生活	学校生活	地域生活	目標となる行動
好きな物・活動 ・食べ物 ・活動 ・場面 ・その他				
嫌いな物・活動 ・食べ物 ・活動 ・場面 ・その他				子どもの持つ力や強み
困っていること ・やめたいこと ・なくしたいこと ・できないこと ・その他				子どもに使える強化子
夢や希望 ・現在 ・近い将来 ・遠い未来 ・その他				必要な行動支援

図12. 子どもの意思・希望質問シート

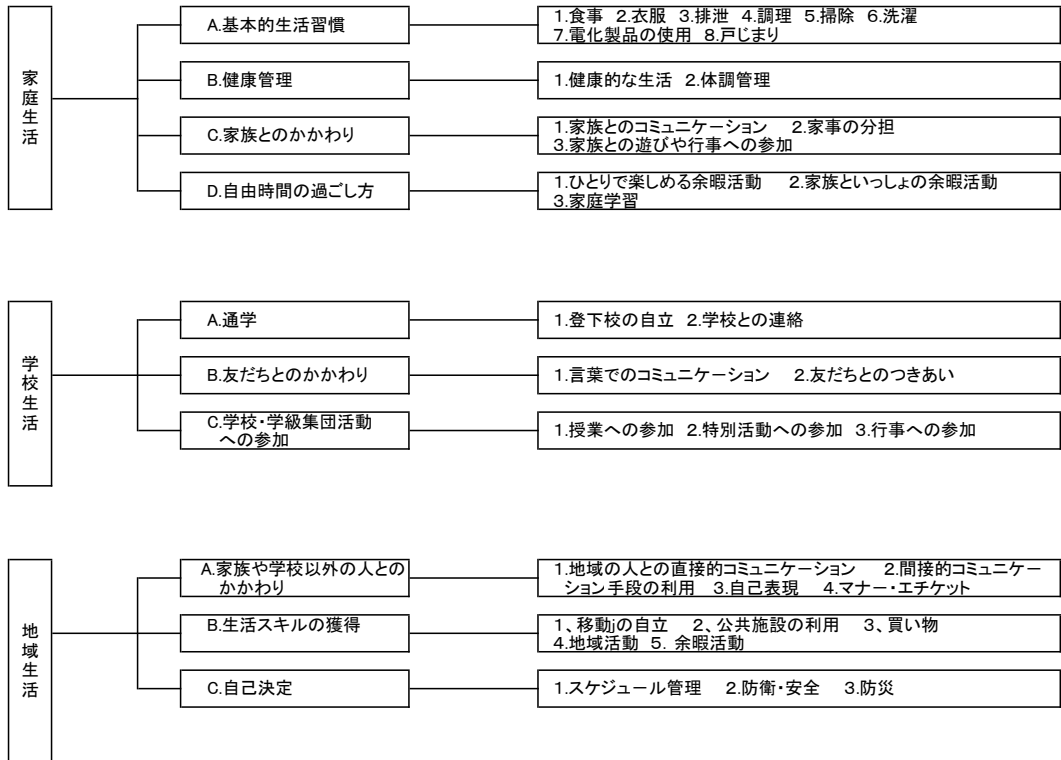


図13. <子どもの活動カタログ>の構造

「学齢期の子どもの行動支援プログラム」の構造と指導の進め方

指導—評価過程	アセスメント・行動支援シート	記入状況	備考
	No. 1: フェイスシート		
	No. 2: 親のニーズ質問シート		
	No. 3: 家族のアセスメントシート		
	No. 4: 子どもの日常活動質問シート (1) 子どもの生活時間		
	No. 5: 子どもの日常活動質問シート (2) 生活地図		
	No. 6: 子どもの日常活動質問シート (3) 生活の様子		
	No. 7: 学校生活質問シート		
	No. 8: 行動支援カリキュラム計画シート		
	No. 9: 行動支援記録シート		
	No.10: 行動支援活動チャート		
	No.11: 行動支援経過シート		
	No.12: 子どもの意思・希望質問シート		

図14. 『学齢期の子どもの行動支援プログラム』の構造と指導の進め方

表1. <子どもの活動カタログ>生活領域「家庭生活」

内 容	活 動	備 考			
A 基 本 的 生 活 習 慣	1. 食事	①適切な食事をする ②食事のマナーを守る ③食事の配膳や片づけをする			
	2. 衣服	①季節や場所に合った服装をする ②年齢、性別、場所を考慮した着脱をする ③衣類の手入れをする			
	3. 排泄	①自分の排泄のリズムを知る ②場面、状況に応じた排泄行動をする ③どんなトイレにも対応する			
	4. 調理	①お湯を沸かすなどの基本的な調理をする ②電子レンジを使って料理をする ③献立を考え必要な材料をそろえる ④焼く、ゆでる、炒めるなどの簡単な加熱調理をする ⑤火の始末をする ⑥包丁を使用する ⑦調理器具を使用する ⑧食器を洗い、拭き、片づける			
	5. 掃除	①掃除機を使う ②はき掃除、ふき掃除をする ③自分の部屋の整理整頓をする ④ごみを分別する			
	6. 洗濯	①洗濯機を使用する ②洗濯物を取り込みたたむ ③手で洗う			
	7. 電化製品の使用	①照明器具やエアコンを状況に合わせて使用する ②テレビ、CDプレーヤー、DVDなどのオーディオ機器を使用する ③冷蔵庫などの電化製品を適切に使う ④リモコンなどの電池がなくなったら入れ替える			
	8. 戸じまり	①鍵をかける ②鍵を管理する			
	B 健 康 管 理	1. 健康的な生活	①清潔に過ごす ②規則正しい生活をする ③洗面、歯みがきなど身だしなみを整える ④入浴や洗髪をひとりでする ⑤適度な運動をする		
		2. 体調管理	①体調の異変に気づき、家族に伝える ②薬を飲む ③簡単な応急処置をする ④病院へ行く ⑤生理に対応する		
		C 家 族 と の か か わ り	1. 家族とのコミュニケーション	①言葉であいさつをする ②要求や自分の意思をはっきり伝える ③できごとを報告する ④質問をしたり答えたりする ⑤気持ちを表現する ⑥テレビ番組や時事ニュース、ゲーム、漫画などの話題で会話を ⑦冗談を言ったり、ものまねをしたりして家族を笑わせる ⑧許可を得る	
			2. 家事の分担	①お手伝いでいろいろな作業をする ②留守番をする	

内 容		活 動	備 考
D 自由 時間 の 過 ご し 方	(続 家事の分担)	③責任を持って決められた家事をする	
	3. 家族の遊びや行事への参加	①家族と一緒に遊ぶ	
		②家族と一緒に買い物に行く	
		③自分以外の家族が主役の行事に参加する	
		④保護者が同伴しなくても、兄弟親戚などと外出する	
		⑤家族の好みを知り、プレゼントをする	
	1. ひとりで楽しめる余暇活動	①絵を描く	
		②読書をする	
		③テレビやDVDを見る	
		④インターネットやポータブルゲームをする	
		⑤工作をする	
		⑥音楽活動をする	
⑦写真を撮る			
⑧手芸をする			
⑨文字を書く			
2. 家族と一緒の余暇活動	①おやつを作る		
	②園芸をする		
	③ペットの世話をする		
	④スポーツをする		
3. 家庭学習	①学校から出された課題をする		
	②学校で学んだことを家族に話す		
	③日記をつける		
	④時計を読む		
	⑤決められた時間を守って行動する		
	⑥カレンダーを読む		
	⑦こつかい帳をつける		
	⑧簡単なお金の計算をする		
	⑨読書をする(音読・黙読)		
	⑩新聞やテレビなどから必要な情報を得る		
	⑪パソコンを扱う		
	⑫文房具を使う		

表2. <子どもの活動カタログ>生活領域「学校生活」

内 容		活 動	備 考
A 通 学	1. 登下校の自立	①朝の始業時刻に間に合うように登校する	
		②集団登下校する友だちと一緒に登下校する	
		③保護者などが同伴しなくても登下校する	
		④交通のルールやマナーを守る	
2. 学校との連絡	①学校で配布された印刷物を家の人に渡す		
	②学校で使用する用具を持参し提出物は先生に渡す		
	③自分の持ち物を管理する		
B 友 だ ち と の か か わ り	1. 言葉でのコミュニケーション	①友だちと学校での出来事について会話をする	
		②友だちと冗談を言う	
		③自分から声をかけて遊びのグループに入る	
		④いやな時は断る	
		⑤テレビ番組や時事ニュース、ゲーム、漫画などの話題で会話をする	
2. 友だちとのつきあい	①特定の親しい友だちがいる		
	②友だちと遊ぶ約束をする		
	③友だちとのトラブルを解決する		
	④友だちとお互いに助け合う		
	⑤友だちと物の貸し借りをする		
1. 授業への参加	①時間割の流れに合わせて行動する		
	②授業の準備をする		

内 容		活 動	備 考
C 学校・学級集団活動への参加	(続 授業への参加)	③学級の話し合いに参加する	
		④授業のルールに従う	
		⑤全体への指示に従う	
		⑥集団行動をする	
		⑦使った物を元の場所へ戻す	
		⑧友だちの発言を聞き自分の意見を発表する	
	2. 特別活動への参加	①委員会や児童会の仕事をする	
		②係り・当番活動をする	
		③クラブ活動に参加する	
	3. 行事への参加	①運動会・学習発表会・遠足などの行事に参加する	
		②卒業式などの儀式的行事に参加する	
		③宿泊を伴う行事に参加する	
	④行事で係りの仕事をする		
	⑤行事のルールを守る		

表3. <子どもの活動カタログ>生活領域「地域生活」

内 容		活 動	備 考
A 家族や学校以外の人とののかかわり	1. 地域の人との直接的コミュニケーション	①自分からあいさつをする	
		②質問に答える	
		③お礼を言う	
		④出来事を報告、説明をする	
		⑤感想を言う	
		⑥わからないことは質問する	
		⑦許可を得る	
		⑧お詫びをする	
		⑨敬語を使う	
	2. 間接的コミュニケーション手段の利用	①電話をかける	
		②電話をうける	
		③郵便を出す	
		④メール、FAXなどを利用する	
	3. 自己表現	①自己紹介をする	
		②意見を言う	
		③理由を言う	
④喜怒哀楽を表す			
⑤好きなものを選択する			
4. マナー・エチケット	①冠婚葬祭の行事に出席する		
	②他家の訪問をした時適切な行動をする		
	③自宅へ人を招いた時適切な行動をする		
	④公共の場所での適切な会話や行動をする		
	⑤約束を守る		
B 生活スキルの獲得	1. 移動の自立	①自転車に乗る	
		②電車に乗る	
		③バスに乗る	
		④地図を利用する	
	2. 公共施設の利用	①図書館を利用する	
		②郵便局を利用する	
		③ATMを利用する	
		④交番(警察署)を利用する	
		⑤医療機関(クリニック、診療所、病院)を利用する	
		⑥美術館、博物館などの文化施設を利用する	
		⑦テーマパークや遊園地などのレジャー施設を利用する	
		⑧ファストフードなどの飲食店を利用する	
		⑨宿泊施設を利用する	
	3. 買い物	①自動販売機で飲み物などを買う	

内 容		活 動	備 考
B 生活 スキ ルの 獲得	(続 買い物)	②コンビニ、スーパーで買い物をする	
		③小売店で買い物をする	
		④ビデオレンタル店でDVDなどを借りる	
		4. 地域活動	①子ども会、夏祭りなどの町内会の行事に参加する
		②児童館などの行事に参加する	
		③ワークショップに参加する	
		④学童保育、ディサービスを利用する	
	5. 余暇活動	①スポーツ系サークルに参加する	
		②ピアノ、絵画、書道など芸術系サークルに参加する	
		③キャンプなどの野外活動に参加する	
④展覧会などに出品する			
C 自 己 決 定	1. スケジュール管理	①アラームやタイマーをセットする	
		②スケジュールに合わせて行動する	
		③自分でスケジュールをたて実行する	
		④必要な持ち物を用意する	
	2. 防衛・安全	①保護者がいない場面で危険なことにあわないよう気をつける	
		②ひとりで外出し、交通ルールを守る	
		③留守番のとき安全に過ごす	
		④緊急時に対応する	
		⑤安全機器を適切に使う	
	3. 防災	①自然災害にあったらどうするかを話す	
②保護者がいない場面で事件か事故にあったらどうするかを話す			